

平成23年4月1日

平成23年度 武蔵野市立第六中学校学校経営方針

武蔵野市立第六中学校  
校長 田口 康之

1 はじめに

本校の教育目標である

「力いっぱい自分の能力を伸ばそう」

「みんなで考え協力しよう」

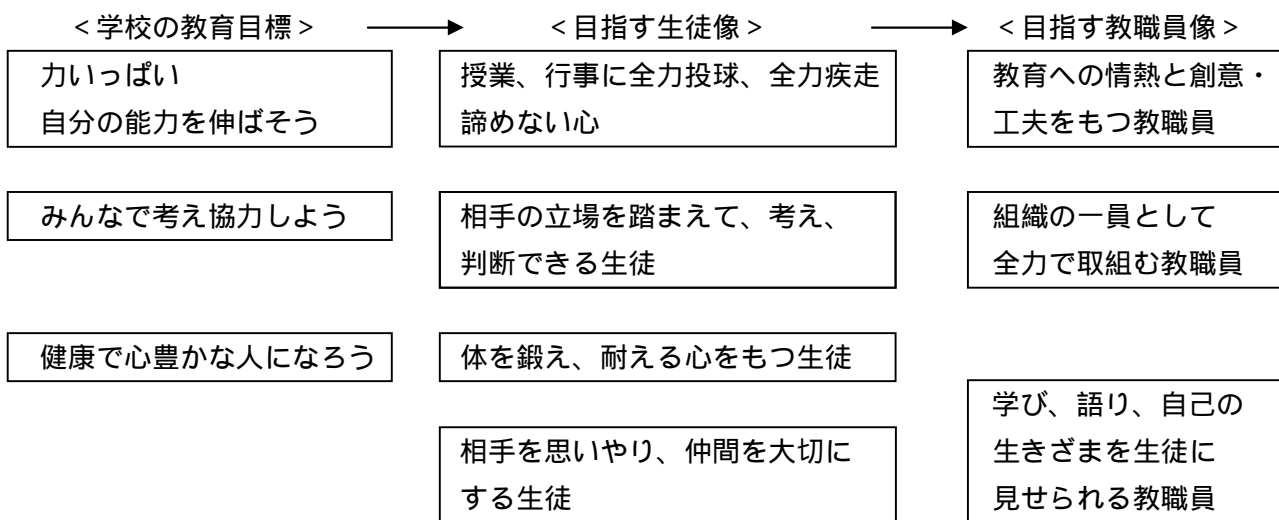
「健康で心豊かな人になろう」に基づき、

学校のさらなる自主性、自立を目指し、教職員が一丸となり、生徒が学校に登校したくなる「明日が楽しみな学校」を目指す。そして、その実現に向け、次に示す学校像を目指す。

2 目指す学校像

「明日が楽しみな学校」

生徒、教職員、保護者、地域住民が相互に信頼し合い、学校に早く行きたいと素直に受け止めてくれる学校を目指す。



3 中期的目標と方策

(1) 知識を学ぶ場としての学校づくり

生徒が毎日登校できる魅力ある「明日が楽しみな学校」を創造していくために、生徒の学力の基礎・基本を確かに身につけさせていくことが大切である。

その実現に向け、小学校の教育課程を踏まえ、3年間を見通した指導計画及び評価規準に基づいた授業を展開し、授業の質を高めていくとともに、個に応じた指導方法・内容を工夫していく。

(2) 生きる力を育む場としての学校づくり

生徒一人一人の自己実現が図られるために、「生きる力を育む場づくり」を推進し、日々の教育活動を幅広く豊かなものにしていく。

そのために、本校の特色ある選択教科、総合的な学習の時間、行事をさらに充実し、教育委員会や保護者、地域と連携等により教育活動を推進する。

### (3) 友を得る場としての学校づくり

学校は、知識を得る場、生きる力を培う場ではあるがその基盤となるのは、仲間を中心とする教職員、保護者、地域等とのかかわりである。

そのために、コミュニケーション能力を高め、人とかかわる場を意識的に設定し、友と共に学び合う教育活動を推進する。

## 4 今年度の重点と方策

### (1) 確かな学力の定着

生徒は、本来生まれながらにして、興味・関心をもち、何事にも向上したい気持ちをもっている。

学校は、その生徒の意欲をさらに引き出し、継続させ、さらに高めさせていかなければならない。

特に学習面では、創意・工夫ある授業展開と個に応じた学習指導への改善を通して、生徒一人一人の学力の向上を目指す。

### (2) 心の育成

生徒は、全て個性をもち素直で明るい存在である。そして、学校は、その個性が発揮される場でなくてはならない。そのためには、互いを認め合い、互いの存在を大切にする教育活動が不可欠である。

また、一人一人の教職員は、生徒と正しく向かい合い、信頼関係を構築し、心の育成を目指す。

### (3) 体力(耐力)の向上

学力や豊かな心を高め培っていくには、生徒自信の体力や健康が土台となってくる。そのため、学校は、学校教育全体生徒の体を鍛え、体を動かすことの楽しさを味あわせる場や機会を支援していくことが必要である。特に行事や部活動を通して体力の向上を目指す。

### (4) 開かれた学校

学校は教育活動全体を通し、生徒・保護者、地域に説明責任を果たすとともに、教育活動への声を聞く機会や場を広く設け、教育活動をさらに発展させていかなければならない。また、学校内においても風通しの良い組織でなくてはならない。外にも内にも開き、信頼される学校を目指す。

### (5) 生き方を学ぶ

セカンドスクール、職場体験、修学旅行等の宿泊行事での体験学習や総合的な学習の時間における課題解決の学習を通して自らの生き方を考える力やその考えを発表できる力を育成する。

### (6) 40周年行事を通しての学校や地域を愛する心の育成

式典や周年行事を通して、学校を愛する心や、地域の方々との触れ合いを通して、郷土を知るとともに愛する心を培う。

## 5 経営方針を達成するための重要項目

### (1) 組織を生かした教職員の協力体制の確立

管理職、教職員が素直に意見を出し合える活力ある学校

### (2) 教育公務員としての自覚の基に職務の遂行

研修(教育課題に向けて)と修養(授業改善)

法の遵守

### (3) 新教育課程の定着に向けた取組みの推進

習得と活用及びその評価

言語活動の充実とその評価

### (4) 家庭、地域との積極的な連携

行事、人材活用

PTAとの連携、開かれた学校づくり連絡会充実